

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ふじのみ園		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚統合理論にもとづく身体づくりを柱とした療育を行っている。 ・TEACCH®の技法を活用した自閉症児への発達支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的構造化、物理的構造化、時間的構造化を工夫しながら、障がいのある子どもたちにわかりやすい環境づくりに努めている。 ・感覚運動の発達を促す動きへの取組を全般的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な技法について、経験豊富な職員を中心としてOJTにより各職員のスキルアップを図れるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人一人の課題に応じた研修を受けることができるようしており、職員のスキルアップを大切にしている。 ・職員間で情報共有と連携をしっかりと図り、職員での話し合いをもとに利用園児一人一人の実態に応じた療育計画を立案し実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達協会のオンライン研修を、職員一人一人のニーズに応じて受講できるように計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修への派遣の推進。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・公設民営の事業所なので、経営が安定しており、保育経験豊富な保育士が多く、児童発達支援の経験豊富な保育士も多いので、利用児童の実態を見極め、きめ細かな療育を実施することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用園児の増加に合わせて、職員を増員して対応してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後児童発達支援センターへ機能強化する計画があることから、STやOT、臨床心理士等の専門職の配置についても検討を進めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が老朽化しており、しかも狭いため、定員一杯に利用児が増えると、狭く対応できない状況である。 ・遊戯室も狭く、部屋数も少ないため、2クラスが活動する時に、活動の制約を受ける場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスごとの活動がかぶらないように、相互に相談しながら、必要な部屋を使用するなど活動の制約を最小限にするよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後移転して児童発達支援センターへ機能強化する計画があることから、より多様な活動が保証されるよう、十分な広さの施設確保に向けて、計画を提案していきたい。
2			
3			